

「大波止の鉄玉」の紹介

佐々田 学

平成十九年五月一日、長崎市に新たな指定有形文化財が二つ加わりました。

一つは日見町の「養國寺の梵鐘」、そしてもう一つは元船町にある「大波止の鉄玉」です。これで長崎市に所在する文化財の総数は二四一件、うち市指定の文化財は二三〇件となりました。

「大波止の鉄玉」は、長崎七不思議の一つ「鉄砲玉（てっぽんたま）」の呼び名で知られ、「大波止に玉はあれども大砲なし」と俗謡に歌われ親しまれています。この鉄玉については「大砲のない」以外にも不思議な、知られていないことが多くあります。また、既にこの「鉄玉」に親しまれている方のなかには、「どうして「鉄砲玉」の名前で指定しなかったんだろうか」との疑問が起るかもしれません。

今回の文化財指定に先立ち、私が「大波止の鉄玉」の調査をした経緯もあり、この度「ながさきの空」に寄稿する機会に恵まれましたので、新しい文化財を紹介し、そして、先に述べたような疑問にお答えする目的で、本稿を記すことにしました。

さて、この「鉄玉」は、いつ、どこで、だれが、何のために、造ったのか、その由来には不明な点が多いのです。由来について、一番多く伝えられている説は、島原の乱（一六三七〜三八）の際、唐通事 頼川官兵衛により、あるいは頼川官兵衛の指示により、大砲の玉として造られたというものです。



市指定有形文化財「大波止の鉄玉」

しかし、これに対して異説は多々あります。管見では、鉄玉について一番古い記録は、貞享五年（一六八八）の『長崎夜話草』ですが、これには「国崩（西洋から輸入し

た大砲）」の玉と判断し、その由来がまったく異なっています。このように、江戸時代中頃の記録でも既に「由来はわからない」とされており、宝暦四年（一七五四）に編纂された『長崎実録大成』でも、当時聞き伝えられた説をいくつも記した上で、「何れも虚蕩」と記してあります。

更に「呼び名」についても、江戸時代、必ずしも「鉄砲玉」とは呼ばれていなかったようです。記録から挙げてみると、「玉」「鉄丸」「鉄玉」「鉄丸玉」「石火矢玉」…などと様々です。

しかし、わからないことを列挙しても、前に進むことはできません。今度はどれだけのことが、事実としてわかるのかを考えたいと思います。

まず、この文化財の存在は、「いつ」まで遡れるか。これについては、江戸時代の絵図を検討した結果、現在のところ一番古くは、延宝年間（一六七三〜八〇年）末の製作とされる、『長崎鳥瞰図屏風』（箔屋屏風）に描かれていることがわかりました。

つぎに、「何のために」造られたか。鉄玉の寸法を計測してみますと、次の結果を得ることができました。

○玉全周 約一七五cm ○台座（段目）一辺約七一、五cm、高約一七cm
○玉十台座の総高 約七七、五cm

この実測値は、寛政四年（一七九二）、町年寄高嶋作兵衛、乙名若杉猪三太の立会のもと計測した、周五尺八寸（約一七五、八cm）、台座 二尺三寸五歩四方（約七一、二cm）、高九寸（約二七、三cm）、総高二尺六寸（約七八、八cm）に近いものです。そのため、この記録は信憑性が高いと思います。寛政四年には、重量も計測し、一四七貫九二〇目（約五五四、七kg）と記されています。今回の調査では重量を測ることができませんでしたが、この寛政四年の記録と同等のものであろうと推定しています。

ところで、玉の体積と比較すると、この重量は鉄球にしてはあまりにも軽いことがわかります。この指摘は、既に丹羽漢吉氏がされており、

風信

○七月三十日、第二十一回参院選当選の報をみる。予想の人達が多数当選されていて嬉しかったが、同時に「今後、この方々が、私達が希望してきた事を、本当に実行して下さるだろうか」と不図おもった。

○七月二十四日、十八銀行前頭取藤原和人氏、ならびに新頭取宮脇雅俊氏の御挨拶会に出席。記念にとエンジ色のワイピングクロスを戴いた。

○七月二十九日、藤間金弥先生の藤栄会に招かれ、久しぶりに日本舞踊の美しさを見せて頂いた。

○八月九日、長崎に原爆が投下されてより六十二年目となる。私は其の時、福岡の西部軍にいた。其の夜、私達は「アメリカが新型爆弾を長崎に落した」と隊長殿より説明があった。十五日終戦。それより一週間後、私は長崎に戻ってきた。家では、私一人が被爆者でなかった。

○八月は十三日よりお盆。十五日夜は「精霊ながし」。その夜は恒例になつてしまったNBCテレビでの精霊流し実況を放映、家に帰ったのは夜十二時だった。帰る途中「もどり鐘」がさびしく聞こえてきたのは、お盆の感を一入ふかく感じさせられた。

○八月十六日、地獄の釜の蓋があき光源寺の幽霊が御開帳になる。長崎の人達は「ウグメの幽霊」という。ウグメとは「産女」と書く。箱書に延享三年と記してあるので二五一年前の製作となる。幽霊の「髪の毛は朝鮮かもじ」、目にはビイドロ、「白衣を着せる事」と箱の蓋に記してあった。

○十八日、今年も「道路ふれあい月間バスツアー」を国土交通省長崎事務所後援で開催することができた。今年で第六回である。今年も亀山八幡宮から佐世保弓張トンネル工事現場見学の説明をうけた後、福石観音、海軍墓地を参拝。彼杵道の駅に立ちより午後六時長崎に帰った。

○八月の夏休みを利用して「長崎くんち」奉納踊の稽古を各町内でおこなっているのので、一巡して来てくれとの事。先ず近くの八幡町の剣舞練習所に行き、麴屋町の川船。先夜は五島町まで出かけて龍踊を見に行った。五島町では会長さん御夫妻の案内で子ども達が多く参加している「ジャバやし」を演奏して戴く。次の夜

は勇壮な銀屋町の「シャチ太鼓」、西浜町の「ジャ船」の練習風景を訪ねた。もう町の人達には「くんち気分」が大いにあふれていた。



文化財の保護や情報収集には、専門的な知識が必要となります。私たちはその任務の一端を担っていますが、地元の方々、市民の方々の文化財への愛護心や知識や記憶、経験に教えていただくことも多々あります。それが文化財を守り伝える力になると思います。

最後に今回の「大波止の鉄玉」の文化財指定につきましては、元船町自治会の沢本自治会長ほか同町内各位より多大の御協力を御受け致しましたので厚く御礼申し上げます。

（長崎市教育委員会文化財課）

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二一 一五四〇
十八銀行公会堂前出張所 二F